

## 近畿病院図書室協議会第107回研修会（事例・研究報告会）

研修部

日時：2005年3月25日（金）10：00～12：00

場所：コープ・イン京都

プログラム：

1. 星ヶ丘厚生年金病院図書館の業務分析  
星ヶ丘厚生年金病院 中村友紀氏
  2. 当院の図書館管理システムについて  
三菱京都病院 井上智奈美氏
  3. 病院図書室の役割 - 当院図書室の変遷から -  
姫路赤十字病院 安東正子氏
  4. 近畿病院図書室協議会総合雑誌目録について - 紙媒体から電子媒体への移行 -  
株式会社サンメディア 大西幸雄氏
  5. iyakuSearch - 医薬品情報データベースのご紹介 -  
財団法人日本医薬品情報センター  
寺村いく子氏
- 参加者数：45名（会員39名、会員外6名：演者を含む）

### 〈図書館の業務分析〉

図書館資料の大量廃棄処分・図書館利用者のニーズ調査・図書館利用統計などから業務分析していた。同施設では図書館創設時から、専任司書を正規職員として配置している。兼務・パート・派遣職員などでどうにか回していくというのが趨勢という中であって、「ひととき異彩を放っている」という印象だった。「類似の報告がないので比較しようがない」との報告者の感想が漏れていたが、当協議会の年次統計調査結果などから比較を試みてもよかったのではと思われた。

### 〈図書館管理システム〉

病院図書館は小規模であるからこそ、図書館業務の省力化のためにコンピュータ活用が過度に期待される。しかし、高価なパッケージを購入することも、自力で図書館システムを立ち上げることも「夢のまた夢」というのが現状だ。報告者はその点、肩に力が入らず、楽しんでシ



ステム構築をしているようにみうけられた。「新規にバーコード処理を導入したが、バーコードシールをすべての資料に貼るのに1年かかった」との言葉にも、「やろうと思えば何でもできないことはない」とのポリシーがくみ取れた。

〈病院図書館の変遷からみたその役割〉

図書館発足当時から現在までの変遷を図書委員会議事録などの記録をもとに紹介していた。病院機能評価を受審するという一大転機が、図書館業務を見直す契機となったことが話された。

なお、4席目、5席目は、CD-ROM版として発行された「近畿病院図書室協議会総合目録」と、日本医薬品情報センターから新しく公開された医薬品情報データベースの紹介であった。

「近畿病院図書室協議会総合目録」は、昨年秋の第105回研修会の席上で参加者には配布されたが、その後いくつかの不具合が見つかり手直しされた。よりよいデータベースとなるよう、今後も会員皆で育ててゆかなければならないとの念を強くした。

(文責：中村雅子／大阪府立母子保健総合医療センター)

